

- [31] Huang, R.H., 1985 The numerical simulation of the three-dimensional teleconnections in the summer circulation over the Northern Hemisphere. *Adv. Atmos. Sci.*, Vol. 2, pp. 81-82.
- [32] Huang, R.H. and Li, W.J., 1987: Influence of the heat source anomaly over the western tropical Pacific for the subtropical high over East Asia. *International Conference on the General Circulation of East Asia*. Chendu, China, April 10-15, 1987, pp. 40-50.
- [33] Huang, R.H. and Lu, L., 1989: Numerical simulation of the influence of SST anomaly in the western tropical Pacific on the summer circulation anomaly over the Northern Hemisphere. *Adv. Atmos. Sci.*, Vol. 6, pp. 202-214.
- [34] Zeng, Q.C., *et al.*, 1986: Global gridpoint general circulation model. Published in collection of papers presented at the WMO/IUGG NWP Symposium, Tokyo, 4-8, August 1986, pp. 421-430.
- [35] 曾慶存, 梁信忠, 張明華, 1988: 季風和大气环流季節突变的数值模拟, *大气科学特刊*, pp. 22-42 (中国語).
- [36] 曾慶存等, 1990: 跨季度气候距平的数值予测试験, *大气科学 (啓可楨先生紀念刊)*, pp. 10-25 (中国語).
- [37] Zeng, Q.C., *et al.*, 1990: IAP GCM and its application to the climate studies, published in *Climate Change Dynamics and Modelling*. Edited by Zeng, Q.C., *et al.*, pp. 303-330.
- [38] Zeng, Q.C., *et al.*, 1990: IAP oceanic general circulation models. Published in *Climate Change Dynamics and Modelling*, Edited by Zeng, Q.C., *et al.*, pp. 331-350.
- [39] Ji, J.J., 1989: A simplified land surface process model for use in climate study. *Acta Meteorologica Sinica*, Vol. 3, pp. 342-351.
- [40] 李崇銀, 1992: IAP 模式模拟的低頻遥响座, *大气科学 (印刷中)*, (中国語).
- [41] 周曉平, 陳克明, 1992: IAP 海—气綜合模式模拟的 ENSO 現象, *大气科学 (印刷中)*, (中国語).



「地球大気化学国際シンポジウム」開催のお知らせ

CACGP (大気化学と地球規模汚染に関する委員会, 国際学術連合会議 IAMAP/IUGG 傘下) の第 8 回国際シンポジウムと, IGAC (地球大気化学国際協同研究計画) の第 2 回国際学術集會を兼ねて, 「地球大気化学国際シンポジウム」が開催されます。日時は 1994 年 9 月 5 ~ 9 日で, 場所は山梨県富士吉田市です。

このシンポジウムでは, 地球規模の対流圏化学に関する野外測定・室内実験・モデリング等の論文発表を幅広く募集しています。今回強調するテーマは「地球規模の対流圏に対する人為的影響」で,

- ・対流圏オゾンとその前駆気体
- ・温室効果気体の分布と発生・消失フラックス
- ・硫黄と窒素の循環および酸性化における役割—アジアの現況

・エアロゾルと雲の化学および放射への関連
などのトピックスがあげられます。全体として, このシンポジウムは国内外における IGAC 研究の成果発表の場となる予定です。

このシンポジウムのアナウンスが出来上がっています。入手ご希望の方は, 下記のシンポジウム組織委員会事務局にお問合せ下さい。

地球大気化学国際シンポジウム事務局

東京大学理学部地球惑星物理学科

岩上直幹または小川利敏

TEL. 03-3812-2111 (内) 4590または4592

直通 TEL. 03-3815-8020

FAX. 03-3818-0745

参考文献

- Knight, C.A., 1984: Radar and other observation of two vaulted storms in northeast Colorado, *J. Atmos. Sci.*, 41, 258-271.
- Marwitz, J.D., 1972b: The structure and motion of severe hailstorms. Part II: Multicell storms. *J. Appl. Meteor.*, 11: 180-188.
- Miller, L.J. and J.C. Fankhauser, 1983: Radar echo structure, air motion and hail formation in a large stationary multicellular thunderstorm. *J. Atmos. Sci.*, 40, 2399-2418.
- Rotunno, R. and J.B. Klemp, 1982: The influence of the shear-induced pressure gradient force on thunderstorm motion. *Mon. Wea. Rev.*, 110: 136-151.
- Shirooka, R. and H. Uyeda, 1991: Morphological structure of evolving cumuli as seen by a radar and stereographic photographs. *J. Fac. Sci. Hokkaido Univ.*, Ser. VII, 9, 41-50
- 田畑 明, 中澤 栄, 安富裕二, 榊原 均, 石原正仁, 赤枝健治, 1989: 寿命の長いシングルセル型対流雲の構造の解析, *天気*, 36
- 武田喬男, 1987: 水循環の科学, 東京堂出版, 44-45.
- Takeda, T. and K. Seko, 1986: Formation and maintenance of band-shaped convective radar echo. *J. Meteor. Soc. Japan*, 64: 941-955.
- Weisman, M.L. and J.B. Klemp, 1984: The structure and classification of numerically simulated convective storms in directionally varying wind shears. *Mon. Wea. Rev.*, 112, 2479-2498.



1993日中砂漠化機構解明研究シンポジウム

主催：科学技術庁（日中砂漠化機構解明研究シンポジウム組織委員会）

期日：1993年3月2～4日

場所：科学技術庁研究交流センター
茨城県つくば市竹園 2-20-3
TEL. 0298-51-1331

シンポジウムの主要課題：

- ①砂漠形成史
- ②砂漠化機構および環境変動
- ③砂漠化と気候変動
- ④半乾燥地域における生態系の保存および回復機構
- ⑤砂漠化のシミュレーションおよび砂漠化防止への応用

参加登録：1992年11月30日締切

登録料：無料

講演要旨：1993年1月10日締切

連絡先およびサーキュラー請求先：

〒351-01 埼玉県和光市広沢 2-1

理化学研究所地球科学研究室内

1993日中砂漠化機構解明研究シンポジウム
事務局

岡田昭彦, 杉原滋彦, 長島秀樹, 高橋和也

TEL. 0484-62-1111

内線 3632, 3633, 3634, 3636

FAX. 0484-62-4654

合には、やはり詳細な解析によって、モデルに不備な点があったか、あるいは初期条件が悪かったのかなどについて、ヒントが得られる。

このような解析を強調したのは、気象大学校を除いて、わが国の大学では総観気象学の授業も研究も殆どしていないという特殊事情があるからである。

(4) センターの資料部。必要なデータを、すぐアクセスできる形で保持し、全国の利用者に提供するのが資料部の任務である。

(5) センターの外来研究員部。これも重要なセンターの機能である。メソ気象を研究したい人の国内、国際の交流・留学の場となる。紙数がないから、海外からの研究員の場合についてだけ述べる。もちろんメソ気象学の

大家に滞在してもらいたいが、アジア諸国からもたくさん招待したい。中国や韓国の豪雨、バングラディッシュの洪水などで、メソ気象に対する関心が高まっている。国際技術協力の一環にもなる。

もし何年間も滞在できるというのであれば、完全にセンターの戦力になる。現在米国で大活躍している日本人の気象学者は、20～30年くらい前に、よりよい研究環境を求めて移住した人たちである。米国の受け入れ側からすれば、日本のトップレベルの研究者（またはその卵）に来てもらって戦力を増強したことになる。アジアには若くて熱意があって優秀な人がたくさんいる。30年前に米国のしたことを、今のわが国はできないのだろうか。



名古屋大学太陽地球環境研究所助手公募

大気環境部門の1名は主として分光学的手法により地球大気化学関連の研究に、1名は主としてエアロゾルなどの採集試料による大気質変遷の研究に、総合解析部門の1名は太陽地球系科学の解析システムの情報科学的開発研究と運用並びに解析的研究に従事して頂ける方を希望します。

公募人員：大気環境部門助手2名

総合解析部門助手1名

着任時期：決定後なるべく早い時期

提出書類：履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書、並びに、自薦については本人について意見をのべられる方2名の氏名と

連絡先、他薦の場合は推薦書。

公募締切：1992年10月30日

候補者の選考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者のいない場合には決定を保留します。

宛先、問い合わせ先：

〒442 愛知県豊川市穂ノ原 3-13

名古屋大学太陽地球環境研究所

所長 小口 高

TEL. 05338-6-3154

研究

横井武長 Studies of the Atmospheric Boundary Layer with Use of the Laser Collimator
レーザーコリメーターを用いた大気境界層の研究

謝 平平 Studies on the Development and Application of the Rainfall Estimation Method Using GMS Infrared Imagery Data

GMS 赤外画像データを用いた降水推定法の開発およびその応用に関する研究

邊田有理江 A Study of the Process of the Typhoon Formation and Development Using the Satellites Data

人工衛星データを用いた台風の発生発達過程の研究

修士論文

石 岡 圭 一 回転球面上での帯状流の安定性について

下田直樹 Interannual Variability of the Stratospheric Circulation in the Southern Hemisphere

山田慎治 地衡流調節過程で発生する慣性重力波の研究

永井晴康 中国西北部砂漠地域におけるプラネタリ一境界層の観測

寺尾 徹 アジア中緯度偏西風帯にみられる夏季の

季節内変動について

大阪大学工学部環境工学科

修士論文

山川高史 雪生成を含む非静水圧降水モデルの開発
九州大学理学部物理学科

博士論文

秋吉英治 Diagnostic Model Study of Seasonal Variation of Global Ozone and Antarctic Ozon Hole

修士論文

萩原 茂 サイン型底面を持つ回転水槽中の傾圧波動

松山勇二 対流活動から発生する内部重力波に関する数値実験

山村浩一 冬雲の降雪機構—三次元数値実験

吉田容子 中層大気大循環モデルによる大気潮汐振動の研究

吉松和義 浅い対流の組織化過程—三次元数値実験

九州大学農学部農業工学科

修士論文

大隈 徹 AMeDAS 国土数値情報を利用した局地気象解析

柴田昇平 砂漠の土壌水分分布と蒸発速度について

九州芸術工科大学芸術工学科

修士論文

姚 鳳 軍 気温分布の局所性に関する研究



第8回オゾン研究会のお知らせ

オゾン研究連絡会事務局

第8回のオゾン研究会を以下のように開催します。

日時：気象学会秋季大会第2日目（10月8日）午後6時頃から

場所：気象学会A会場を予定（学会会場での掲示をご覧ください）

演者：秋吉英治（福岡大学）

講演内容：モデルを用いたオゾン季節変動のシミュレーション

その他、情報交換などを予定しています。多数のご来聴をお願いします。（林田佐智子）